



天目

無功德 (むくどく)

お正月や選挙の時などに、縁起物としてよく見る置き物のダルマさん。正式には菩提達磨大師(ぼだいだるまだいし)といってインドにいたお坊さんで、お釈迦様の教えを受け継いだ二十八代目の継承者です。禅をインドから中国に伝えたことで、中国禅宗の初祖と呼ばれています。

当時の中国は梁の時代。その権力者、武帝は達磨大師の渡来を歓迎します。首都南京に招かれた達磨大師は武帝から質問を受けます。「私は多くの寺院を建て、多くの僧侶に供養し、布施もし、写経もしました。これだけの善い行いをした功德はどれほどのものですか？」すると、達磨大師はたった一言「無功德」(功德なんて何も無い)と答えました。武帝は納得がいわずに「これだけ仏教のために力を尽くしてきたのに何で功德がないのだ？」と怒りながら問い返しました。達磨大師は「どんなに善いことをしても、それは他人が褒めることであって、自分からあんなこともした、こんなこともしたと自慢し、尊敬されようと期待したのではなんにもなりません。それは功德ではないのです。」と教えますが、武帝にはその心が伝わらず、せっかく招いた達磨大師を追い出してしまいました。

武帝のこのお話し、皆さんにも多少の心当たりはないですか？善いことをした後、それを知人に自慢した覚えは？聞かされる側も、立派だと同調している様に見えて、実はいい気分はしていません。

他人の為に、または社会の為に「あんな善いことをしてあげた」と恩を着せたり誇ったりして満足するのではなく、「善い行いをさせていただいた、そして功德を積ませていただいた」と感謝をすることが仏教の精神で、その行いを自ら明らかにする必要はありません。

ただただ無心に善行を重ねるのです。それが「徳を積む」ということ。

栖雲寺 青柳真元

知っていますか？

「精進料理」のこと

肉と魚を使わない、野菜や豆腐だけの料理を精進料理と言いますが、仏教の正式な料理とか、僧侶が普段食べる料理と思っ



ている方、それはちよつと違います。遠い昔にインドでできた料理なのですが、仏教が起源ではありません。仏教では、動物も植物も命の重さは平等だと教えます。しかし、動物や魚はけがれていて、その肉を食べると人間にもけがれが移ってしまう、だからけがれていない植物を食べるのだ、という仏教とは異なる宗教観から生まれた差別の料理なのです。

時代が経つと精進する修行僧が贅沢を避けて野菜を食べるようになり、また殺生を戒める仏教の教えとも重なり、仏教にも取り込まれました。「お坊さんは肉も魚も食べないのですか？」という質問をよく受けます。私も修行道場では食べませんが、現在でははっきりと「食べますよ」と答えます。事実、お釈迦様も肉は食べていました。本当にいけないのは、肉や魚を食べることではなくて、食べ物を粗末にすることです。動物も植物も我々人間と同じ命ある生き物です。私たち人間は自分の命を保つためにそれらの命を殺していただいているのです。つまり食べ物を粗末にする人は、命を粗末にしているのと同じです。日本人は食事の前に「いただきます」と言いますが、これは命をいただきます、という仏教徒の作法ですし、

生きていること、食べられることに感謝をするための言葉なのです。

最近の大食いブーム。飽食の時代とはいえ、自分の命を保つ為に本当にあれだけの量が必要なのでしようか？命をいただいているという感覚は全く見受けられず、パフオーマンス先行で謙虚や遠慮のかけらもない、命を軽視した行いに見えます。みなさんのお宅では「いただきます」「ごちそうさま」を心から言える食卓にしましょう。

恐怖 「歩くお地藏さん」

棚経（お盆のお経廻り）で横須賀の街を歩いている時の事です。20人程のお散歩中の幼稚園児とすれちがったのですが、園児の一人が私を指差し「あー、お地藏さんだ」とまじめな顔で言うのです。すると周りのみんなも「ほんとだー、おーいお地藏さん」と大合唱になり、（石のお地藏さんが街を歩いてたら不気味だろ）などと思いつつ、どう教えてあげればわかりやすいか考えていると、引率の先生が「お地藏さんじゃなくてお坊さんですよ」とあっさり言ってくれました。今の子はお地藏様も知らないのかと少し寂しい気もしましたが、同時に純粹な子ども達の言動に思わず笑顔もこぼれ、心が和んだ瞬間でした。



虚空蔵菩薩画像ニューヨークへ

当山所有の掛け軸が、最近の研究で中国の元王朝時代の貴重な宗教美術品（景教の聖像画）であることが分かり、来秋ニューヨークのメトロポリタン美術館に展示されることになりました。それに向けて、ただ今修理の真つ最中ですが、海を渡る前に栖雲寺での一般公開も計画しております。

ホームページ作成御礼

栖雲寺でたよりを見ていただいた東京都在住の方が快くお受けくださいました。本当にありがとうございます。インターネットの環境がある方は、是非ご覧ください。

<http://www.tennokusan.or.jp/>

当山にご協力くださいます小林様、薄井様、中村様よろしくお願ひいたします。今はまだ公開したばかりで、決して充実した内容とは言えませんが、今後は多くの方に閲覧してもらい参拝いただけたら、魅力ある内容にしていこうと思ひます。どうぞご期待ください。

おわりに

住職の私事で恐縮ではございますが、七月二十日（海の日）に長男が誕生しました。修業道場で禅僧としての基本は体得してきたつもりですが、父親としては初心者です。檀信徒の皆様には人生の大先輩としてご指導、そしてご慈愛をいただきますようお願い申し上げます。